

## 告 辞

本日ここに、平成二十一年度、東京農工大学大学院、連合農学研究科学位記授与式を挙行することになりましたことは、誠に喜びに堪えません。本日は、連合大学院を構成する大学より、茨城大学学長 池田 幸雄先生、宇都宮大学学長 進村 武男先生、また、各構成大学の理事・副学長、農学研究科長のご臨席を頂いております。

本日、学位記を授与されましたのは、課程博士四十二名、論文博士六名の計四十八名であります。晴れて学位記を授与されたすべての皆さんに、心よりお祝い申し上げます。また、この日を待ちわびておられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思えます。心よりお祝い申し上げます。新たに博士になられた皆さんには、これまで皆さんを支えてこられたご家族やご友人、先輩、ご指導をいただいた先生方などに対して、改めて感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思えます。

本日修了された課程博士の中には、十四名の外国人留学生が含まれております。出身国は十カ国であります。留学生の皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、学位を取得されました。今日までの努力に対して深く敬意を表します。

さて、皆さんはこれからひとり立ちした研究者として社会で活躍されます。現在、我々は温暖化、環境破壊、エネルギー不足、食料問題など、人類の存続をも危うくするような深刻な問題を沢山抱えております。これらはいずれも多くの要因が複雑に相互に絡んでおり、解決は容易ではありません。これらを克服するために大学にはその研究を通して大きく貢献することが期待されておりますし、教育を通して、これらの問題解決に貢献できる高度人材を育成することも大学の重要な使命であります。地球温暖化や環境問題、食料問題など、二十一世紀が抱える大問題の多くが農学に直接かわりのあるものです。皆さんが活躍する場が大きく開いている時代といえるでしょう。さらには、グリーンイノベーションという言葉もしばしば耳にしていることと思えます。日本国政府が掲げる新たな成長戦略の重要な柱の一つです。ここでも農学分野からの貢献は欠かせません。皆さんの専門を通して貢献できる範囲は非常に広く、かつ皆さんはその課題解決の中核を担える人材でもあります。本日めでたく博士号を取得された皆さんには、キーとなる農学という専門領域を通して、人類の持続的発展へ向けた課題の解決に大きく貢献されんことを期待したいと思います。皆さんのそのような活躍が連合農学研究科に期待される社会貢献の大きな部分を占めていると思っております。皆さんはそういう意味でも我々の自慢であり、期待の星です。思う存分活躍してください。

皆さんの科学者・技術者としての感覚は瑞瑞しさに満ちていると思えます。博士論文をまとめる過程で、更なる飛躍に繋がる糸口を見つけた人もいるでしょうし、これまでの研究課題から少し離れた新たな課題をみつけ、研究者としての幅を広げようと胸を膨らませている方もいるでしょう。皆さんは研究者としてフレッシュな感覚に満ちている時期です。予想外の結果や現象に驚き、探究心をそそられる新鮮さに満ちた科学者の目を持っております。「研究」の「研」という文字の右側は二つの物の表面をといで高さを揃えたさまを示します。左側の石偏と組み合わせて、石の表面をといで平らにすること、転じてよごれを磨きとって本質を見極めることを意味します。研究

の二つ目の文字「究」の字の上半分は「穴」を意味し、その下は数字の九です。この「九」は手が奥に届いて曲がったさまを表しております。つまり、「究」は穴の奥底の行き詰まる所まで探ることを示しております。この二つの文字を組み合わせた研究とは、深く調べて物事の本質を明らかにすること、を意味します。先ほど触れました地球規模の大問題はもとより、皆さんが取り組む研究課題のほとんどは、いくつかの要因が複雑に絡み合っているのが常とってよいでしょう。その中から本質的な部分を探り、解明することこそが研究なのです。「研究」という文字が表す真の意味を常に忘れずに、研究というにふさわしい取り組みを期待しております。これまでに身につけた豊富な知識とさらにそれを増やそうという探究心に裏打ちされ、新たな「知」を生み出す力を「研究力」と呼びたいと思いますが、皆さんにはいつまでも若々しい探究心を持ち続け、研究力に富んだ研究者・技術者へと成長されんことを期待したいと思います。そのような皆さんに、相対性理論で有名なアインシュタインの次の言葉を贈りましょう。

「学べば学ぶほど何も知らないということがわかるようになる。

何も知らないと分かるようになるほど学びたくなる。」

この言葉は、大学を卒業あるいは修了していく学生諸君に贈ったことがあります。今回も皆さんに是非この言葉を贈りたいと思った次第です。

最初にも触れましたように、連合農学研究科は世界各国からの多くの留学生が学ぶ国際感覚あふれる研究科です。皆さんには博士論文の課題に取り組む過程で多様な国からの多くの友達ができたことと思います。その国際的な人的ネットワークは皆さんの宝物になるでしょう。今は、通信手段、交通手段が飛躍的に発達し、空間的、時間的距離が劇的に縮まってきております。一方では、問題解決への取り組みが国際的広がりを持つものになり、一国の枠を超え、世界各国との相互理解と相互協力の下で進めることが必須という状況になってきております。皆さんが築いてきた人的ネットワークはそのような場合に大きな力となるでしょう。連合農学研究科を核とした修了生の中の国際的なネットワークを有効に活用しつつ、さらに強固なものにしていただきたいと思います。我々もそれに惜しみなく支援して行きたいと思っております。

最後になりましたが、今後とも皆さんが心身ともに健康で、これまでに修得された学識と技術を存分に活かして活躍されますよう祈念し、また、連合農学研究科のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げます。ここに告辞といたします。

平成二十二年三月十五日

東京農工大学長 小畑 秀文